

金森徳次郎 （明治） 憲法學者、法學博士。明治十九年二月十七日愛知縣名古屋生れ、昭和二十四年八月十六日歿（八六一―九五九）。第一高等學校を經て、明治四十五年東京帝國大學法科大學卒。大藏省から法制局參事官となり、昭和九年法制局長官に就任し、翌年の美濃郡達吉大皇機關説事件の嫌疑を受け十一年辭任。二十一年國務卿として新憲法制定に當る。二十二年國子國會圖書館初代館長。

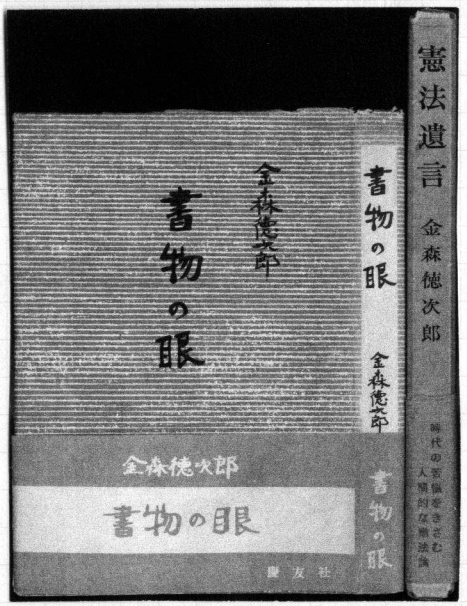
著書に『日本憲法民主化の焦點』（昭和二十一年一月）二十日協同書房『新政叢書』（）、『國會論』（昭和二十一年二月）二十日文壽堂出版部）、『憲法隨想』（昭和二十二年二月）二十日美和書房）、『好色文學批判』（他十九名合著・松川健文編、昭和二十二年九月十五日口

ゴス）、『われらの天皇』（合著、昭和二十六年二月）日われらの天皇刊行会普及部）、『混沌堂雜記』（昭和二十六年五月十五日萬里閣）、『書物と人間』（昭和二十六年九月二十日慶友社）、『現代日本の考察』（合著・永田清編、昭和二十六年十一月十五日慶友社）、『修徳雜記』并は『萌え出ぐる』（昭和二十八年二月）二十日警察新報社）、『書物の眼』（昭和二十八年四月十五日慶友社）、『日本憲法の分析―改正の擁護か』（合著・中部日本新聞編、昭和二十九年六月二十日黎明書房）、『若き日思い出し』（合



著・旺文社編

昭和三十年一月二十日旺文社）、『某月某日』（合



憲法遺言 金森徳次郎

書物の眼

書物の眼

書物の眼

著・漢口茂輝編、昭和二十一年四月、二百五十九日本經濟新聞社）、續稿  
『春風接人』（金森佐喜編、昭和二十五年六月）百大地出版社）、『憲  
法遺言』（昭和二十六年八月）百學陽書房）等。